

第3章

重点プロジェクトの進捗状況

個別目標の中から、他の施策より優先的に取り組むことが必要な施策や着実な進展が求められている事項について設定した「重点プロジェクト」の進捗状況を報告します。

中心となる担当課：環境保全課、農政課

農家や地元の人々の暮らしの中で育まれてきた樹林地、農地、水辺などが共存する里山環境を守るために、市民や NPO 団体との協働のもと、里山の維持管理活動や遊休農地の解消、自然観察会など市民が自然とのふれあう場を創出する取り組みなどを推進しています。

平成 23 年度実施状況

印西市の豊かな自然は、多種多様な生き物が生育・生息し、自然の営みと人々の生活が調和したかけがえのない貴重な環境です。

平成 23 年度は、市民ボランティアによる草深の森の維持管理作業の他、印西自然探検隊など自然と触れ合うことのできる各種イベントや農業を振興するための数々の施策を推進し、この貴重な里山環境の維持・向上に努めてきました。

草深の森維持管理作業

地権者や市民、NPO 団体などの協力のもと、草深の森の維持管理作業を実施しています。

平成 23 年度は、50 名のボランティアのみなさんにご参加いただき、竹林の伐採や枯れ木の除去を行ったほか、草深の森の探索を行いました。また、作業を通じて地権者や草深の森に関心をもつ人々から広く様々なご意見をいただくことができました。



草深の森

農業を振興するための取組み

農業従事希望者に基礎的な農業知識を習得させるための農業研修（平成 23 年度は 1 回実施し、11 名が参加）を実施し、農業版ハローワークへの求職者登録の推進を図っています。また、「印西市農産物ブランド化推進補助金」による農産物ブランド化や、印西市地産地消計画の策定を行いました。

そのほか、「農業振興地域整備計画」の推進により、農地の有効利用や保全を図るとともに、新たに発足した「遊休農地再生対策協議会」が耕作放棄地再生利用事業を実施し、250a の耕作放棄地を解消することができました。

里山環境の普及・啓発

平成23年度に4回実施した印西自然探検隊では、延べ44名の市民が参加し、浦部川周辺や草深の森の自然環境と触れ合いました。

なお、平成15年度から実施していた「生物モニタリング調査」は平成20年度をもって終了しており、今後は小学生の親子を対象とした「生き物調べ」の実施を検討し、準備を進めています。



第3回印西自然探検隊の様子

（平成23年度に広報いんざいで告知した主な里山関連イベント）

発行日	イベント	発行日	イベント
4/1号	➤ 川と森のさわやか散策会	9/1号	➤ 里山散策会
5/1号	➤ 里山散策会 ➤ 自然探検隊(浦部川)	9/15号	➤ 親子里山観察会 ➤ 里山散策会
5/15号	➤ ふるさと印西発見 (中央駅前地区) ➤ 新緑の亀成川を歩く	10/1号	➤ コスモス・里山まつり
6/1号	➤ いんざい環境フェスタ ➤ 里山散策会	10/15号	➤ 房総のむらと秋の里山を訪ねる ハイキング ➤ 里山散策会
6/15号	➤ 青少年ふれあいキャンプ	11/1号	➤ 自然探検隊(松虫周辺) ➤ 膝栗毛2011
7/1号	➤ 里山シンポジウム分科会 ➤ 自然探検隊(草深の森) ➤ 里山散策会 ➤ 手賀沼流域フォーラム	12/1号	➤ 里山散策とミニ講演会 ➤ 手賀沼流域統一クリーンデー
7/15号	➤ 自然探検隊(浦部川周辺)	1/1号	➤ 里山散策会 ➤ モニタリングツアー(手賀沼)
8/1号	➤ 手賀沼流域フォーラム	2/15号	➤ 自然探検隊 ➤ 里山散策会
8/15号	➤ 里山シンポジウム分科会	3/1号	➤ 里山散策会 ➤ ミニハイク(松虫周辺)

今後の展開

里山環境の保全・活用に向けて、農業従事者や市民と連携しながら就農者支援などの取組みを推進し、遊休農地の解消と農地の有効利用を促進します。

また、市民やNPO団体、ボランティアなどと協働し、里山の維持管理活動や自然観察会などを継続して実施することで、環境保全に対する意識の高揚を図っていきます。

あわせて、自然探検隊など市民が自然環境とふれあう機会を積極的に創出する取組みを、継続的に実施していきます。

重点プロジェクト 2 地球温暖化対策の推進

中心となる担当課：環境保全課

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素（CO₂）の排出削減のためには市民・事業者・市が自らの生活や事業活動を見直していく必要があります。

そのために、市では庁内エコプランを率先して実践していくとともに、環境家計簿の普及を促進し、市民の省エネルギー意識を啓発していきます。

また、太陽光発電システムなど、再生可能エネルギーの利用普及に努めます。

平成 23 年度実施状況

地球温暖化の問題に対しては、市だけではなく市民・事業者の協力のもと、地域全体で取り組んでいくことが求められています。

庁内エコプランの推進

市では、事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減目標（平成 18 年度レベルより 5% 削減）達成を目指して、各課に環境推進主任を選任するなど庁内エコプランの継続的な推進に努めています。

平成 23 年度の温室効果ガス年間総排出量（二酸化炭素換算）は、前年度より 23.8% 少ない 6,804,558 kg-CO₂ でしたが、基準年度(平成 18 年度)比では合併により 47.5% の増加となっています。今後は、新市に対応した目標値を検討していきます。

（庁内エコプランについて、詳しくは第 4 章をご参照ください）

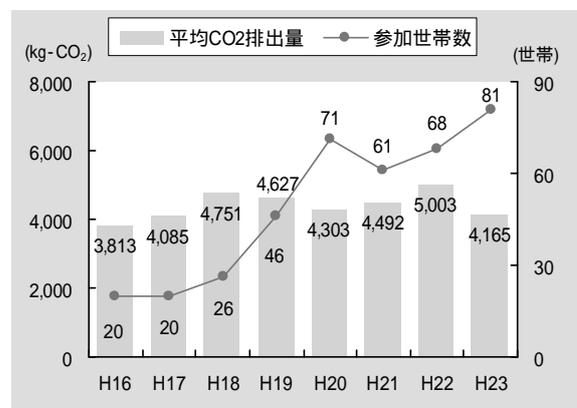
環境家計簿の普及促進

市では、家庭における地球温暖化対策の一環として、環境家計簿の普及促進に努めています。

平成 23 年度は、広報やホームページで参加を呼びかけた他、環境フェスタなどの環境イベント会場でも環境推進市民会議委員が中心となって PR 活動を行い、81 世帯に環境家計簿を提出していただきました。

環境家計簿を提出していただいたみなさんには、年間の CO₂ 排出量や光熱費、環境と家計にやさしい生活のヒントなどを掲載したエコ診断表とエコバッグを配布しています。

《平均 CO₂ 排出量と参加世帯数の推移》



再生可能エネルギーの活用

市では、地球温暖化防止対策として、ご家庭に太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に設置費用の一部を助成しており、平成23年度までに太陽光発電システム529基、太陽熱温水器34基の設置に対して助成しました。



内野小学校屋上に設置した
太陽光発電パネル

今後の展開

太陽光発電システム等の設置補助、環境家計簿の普及啓発を継続的に実施し、家庭における温室効果ガス排出量の削減及び省エネ意識の高揚を図っていきます。

また、市内エコプランについても継続して実施しますが、合併に伴い、制度の一部見直しを検討する必要があります。

コラム 補助金を活用して省エネ設備を導入しましょう

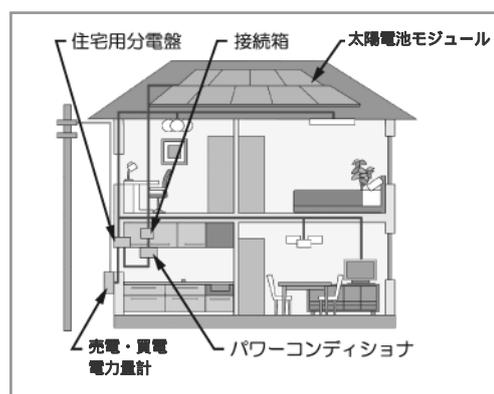
印西市では、地球温暖化防止など環境への負荷の低減を目的として、ご家庭に太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に、設置費用の一部を助成しています。

太陽光発電システム等の導入を検討している方はぜひご利用ください。

補助金額

- ・太陽光発電システム...1kWあたり4万円(上限16万円)
- ・太陽熱利用温水器...1台3万円

- 現在、国でも太陽光発電システム設置にかかる補助制度を設けています。詳しくは太陽光発電普及拡大センターホームページ(<http://www.j-pec.or.jp/>)をご参照ください。
- ご家庭で使いきれなかった余剰電力は電力会社に売電することができます。詳しくは資源エネルギー庁のホームページをご参照ください。
(<http://www.enecho.meti.go.jp/saiene/kaitori/>)
- 現在、太陽光発電システムの訪問販売によるトラブルが多発していますので、ご契約の際は十分に内容をご確認ください。



太陽光発電システムの例

重点プロジェクト 3 マイバッグの利用促進

中心となる担当課：クリーン推進課

近年、全国の都道府県や市区町村のみならず、諸外国においてもレジ袋の利用削減やマイバッグの利用促進を図る取組みが推進されるようになりました。

我が国では、年間約 300 億枚（国民一人当たり 1 日約 1 枚）のレジ袋がごみとして排出されており、レジ袋からマイバッグへの転換は、ごみの排出抑制や石油資源の消費抑制のために効果的です。また、マイバッグの利用をきっかけとして、ごみの分別に気を付けるようになったり、その他の環境問題にも関心を持つようになるなど、環境への意識付け効果も期待されます。

印西市では、市内の事業者と協力し、レジ袋の削減やマイバッグの利用促進などについて、市民への普及啓発を実施しています。

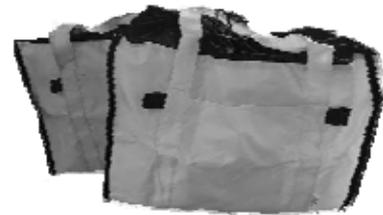
平成 23 年度実施状況

市では、マイバッグの利用促進とレジ袋の削減のため、毎月 5 日をノーレジ袋デーとして、公共施設や店頭での普及啓発を行っているほか、マイバッグ普及促進協力店制度を設け、マイバッグの利用を積極的に推進している店舗を普及促進協力店として登録しています。

また、平成 23 年度には、マイバッグ普及状況調査を実施し、市内のスーパーマーケット 5 店舗でマイバッグの利用状況を調査しました。その結果、マイバッグ利用率は 25%、レジ袋辞退率は 30%と、全国平均（レジ袋辞退率 31.03% 平成 23 年 3 月 日本チェーンストア協会まとめ）と同程度に普及していることが分かりました。しかし男性や若年層のマイバッグ利用率は低く、今後重点的な普及啓発が求められます。

今後の展開

マイバッグの利用を普及するために、ポスター掲示やイベント等でノーレジ袋デーの周知を図るとともに、マイバッグ普及促進協力店の拡充を推進していきます。



印西市エコバッグ(マイバッグ)



ノーレジ袋デー普及ポスター